

令和6年2月29日

文部科学大臣 盛山 正仁 様  
文化庁長官 都倉 俊一 様  
福岡県知事 服部 誠太郎 様  
福岡県教育長 吉田 法稔 様  
福岡県文化財保護課長 明永 好弘 様

「初代門司駅関連遺構の保存要望書」について（ご報告）

一般社団法人日本イコモス国内委員会  
委員長 岡田 保良

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

件名に記す初代門司駅関連遺構につきましては、すでに多くの関連学協会等から北九州市長を始めとする主要な関係者に保存の要望書が提出されたところです。日本イコモス国内委員会（以下、「日本イコモス」という）でも、この遺構の重要性に鑑み、令和6年2月22日に市を訪問し、同封の要望書を市長、市議会議長、教育長等に提出しました。

要望書にも述べました通り、わが国は非植民地国家として東アジアでいち早く自律的に鉄道敷設を実行し、それによって近代化・文明開花を全国へ波及させました。今回発見の遺構群は、1891（明治24）年開業の初代門司駅に関連するもので、門司駅と門司港が一体的に整備されたこと、そこには我が国の近代建築・土木技術の発展の礎を成す東西の交流があったこと、陸路海路の発展によって中国大陸や東アジアとの繋がりが広がったこと等を物語る物的証拠として歴史的価値は極めて高く、国史跡指定に値すると日本イコモスは思料しております。九州鉄道初代門司駅研究会が令和6年2月24日に主催した緊急シンポジウムでも、我が国を代表する17名の著名な専門家から遺構群の貴重性に係る発言がなされ、現地保存とそのためさらなる調査を求める共同声明が出されました。

しかしながら、この遺構群は、門司港地域の複合公共施設建設に伴い、ごく一部が移築保存され、それ以外は記録が取られるのみとなります。北九州市によれば、今年4月には移築工事が着工される予定です。

日本イコモスは、十分な価値の認識無く、遺構小部分二ヶ所の移築と、記録後の破壊によ

り、世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」とも関係深い観光資源ともなるこの重要な遺構群が失われることを深く憂慮しております。以上のような趣旨にご理解をいただき、当該遺構群の十全な保存と有効な活用に向けてお力添えを賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、本状、要望書コピーとともに、上述シンポジウムで紹介されました保存活用事例のいくつかを主催者から提供していただきましたので、参考資料として同封いたします。

#### お問い合わせ先

一般財団法人 日本イコモス国内委員会

事務局 担当 脇園大史

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5 岩波書店一ツ橋ビル 13F 文化財保存計画協会 気付

電話・ファックス: 03-3261-5303 e-mail: [jpicomos@japan-icomos.org](mailto:jpicomos@japan-icomos.org)